

水 土 里 レ ポ ー ト

投稿月日	平成30年7月25日
タイトル	田んぼアートまつり（水戸市川又地区）開催
水土里レポーター名	水土里ネット茨城 総務経理課 主事 隠岐 龍也



平成30年7月22日（日）に水戸市川又地区において、今年で5回目となる「田んぼアートまつり」が開催されました。この田んぼアートまつりは、水戸市主催により、多面的機能支払交付金活動を行う川又活動組織の協力のもと、地域観光や都市間交流を図る目的で行われています。主催者である水戸市長の他に、来賓として、県議会議長や大洗鹿島線副社長、下大野小学校校長など計11名が来場し、みとちゃんやロボスケ、ホーリーくん、JA水戸のOweNなど、マスコットキャラクターのみんなも来てくれました。

会場ではみとちゃんのテーマソングやロボットの応援歌がBGMとして流され、最初に行われたマスコットキャラとの記念撮影では、歩き回るマスコットキャラに子どもが駆け寄って、すぐに人集りができました。



オープニングセレモニーでは、水戸市長の挨拶をはじめとして、その他来賓の方々の挨拶を頂き、図柄の説明や田んぼアートを作成することになった経緯などについて説明がありました。農業用水路で行われるザリガニ釣りの会場にたくさんの方が集まり、子ども達は水路に落ちないように気をつけながら、スルメがつけられた糸を先につけた棒を使ってザリガニをどんどん釣っていきます。中には10匹以上も捕まえている子もいました。隣のめだかすくいでは、網が破れないように集中してすくい、捕まえためだかの大きさを競い合う姿が見られました。



水戸市長挨拶



ザリガニ釣りの様子

お昼の頃に田んぼアートクイズ（〇×クイズ）が行われ、子ども達は頭上で手を〇や×にして回答していました。また、クイズの途中で、同日に大洗鹿島線で開催されていた「田んぼアートツアー」の電車が田んぼの正面で停まりました。乗客が身を乗り出しながら田んぼの写真を撮っているのを見て、少しうれしく思いました。



水戸クイズに答える子ども達



停車する列車の車窓から田んぼアートを撮影する人

午後一番暑いときには、田んぼアートコンサートが行われました。田んぼでコンサートというのは中々ないものだと思いますが、今回歌ってくれた人はポーランド人歌手の方で、さらに1曲目がショパンだったことが、重ね重ね面白いと感じました。田んぼでクラシックがどのように聞こえるのか興味深く聞いていると、周りに障害物がないためか、高い歌声がスーッと広がるように透き通って聞こえて、心なしか涼しい風が吹いてきたように感じました。



田んぼを目の前にクラシックを歌う外国人女性

田んぼの設計図の作者である、茨城大学工学部住谷助教授に今回の田んぼアートについてお話を伺うことが出来ました。お話によると、この田んぼアートでは円筒座標投影法という、この田んぼアートのために住谷助教授が生み出した、全国でもここ(水戸川又地区)だけの投影法を使って作成されているそうです。また、他の田んぼアートでは、機械で区画毎に色の付いた苗を植えていく方法がとられますが、それでは地元の人に参加できません。しかし、この田んぼは地域住民が参加できるよう、30cmの間隔を空けて手で植えるように設計されています。この30cmというのにもこだわりがあるようで、この30cmは緑が強く見えすぎずちょうど良く見ることが出来るように育つよう計算されたものだそうです。また、多少間隔が空くことにより、稲が風に揺られ、絵が生きているかのように感じられるとのことでした。

他にも大きく違うことがあります。それは絵の形です。他の地域でよく見られるのは縦長のものが多いのに対して、この川又地区の絵は横長に設計されています。一見横長よりも縦長の方が見やすい気がしますが、実はそこにも理由があるそうです。縦長にすると立体的に見せることができますが、あえて横長にすることで、一目ですべてを見させないことにより、絵のダイナミックさと見えていない部分への興味や関心を生み出すことができるのです。いわゆる、パノラマの状態になっております。それにより通常の投影法を使うことが難しくなり、今回の新しい手法を生み出すことになったとのことでした。

また、この田んぼアートでは絵の一部に足場を組むことにより、実際に絵の中に入ることが出来るようになっております。というのも、人間は比較対象が無いとその大きさを正しく判断することができないため、人が絵の中に入れるようにすることで、大きさの比較をより簡単にできるようにしたのです。



絵の中の足場に立つと……



多くの方にご来場いただきました

当日は焼けるような暑さにも関わらず、たくさんの来場者がありました。地元農産物の販売や茨城大学の学生が行う似顔絵コーナー、かき氷や焼きそばの販売など、その他ブースも列が出来るほど並んでおり、盛況だったと言えるのではないのでしょうか。地元の川又地区からは担い手不足で田んぼアートの継続に苦勞しているという話も聞きます。しかし、この田んぼアートは地元の助け無しでは作り得ないものであるため、なんとか今後もこの素晴らしい作品を作り続け、地元を盛り上げてほしいと思います。そのためにも地域住民のみならず、多くの方が農業に対しての理解を示し、特に第2次、第3次産業などの、農業を含む第1次産業の恩恵を受ける産業に従事する人々がそれを理解し、様々な点から支えていく必要があると感じています。

※今後の予定としては、平成30年9月29日(土)に「田んぼアート稲刈り体験」というイベントが行われることになっています。実際に田んぼアートを稲刈りし、おだかけの体験が出来るそうです。